

令和5年度 学校給食に長野県産物

11月19日(日)、県立大学にて「学校給食長野県産物を活用した献立コ
感染症予防のため実技審査を実施することができず、4年ぶりの実技
参加をいただき、おいしく栄養バランスの取れた献立をたくさん考えて
の、中澤弥子長野県立大学健康発達学部食健康学科教授をはじめ、審
クールを通して、食への意識・技術力に磨きをかけ、新たな給食のメ

課題献立部門

開発加工食品を使用し、食育として教材化したもの

優良賞



茅野市立長峰中学校



上田市第二学校給食センター

喬木村学校共同調理場

最優



給食で伝えたい
喬木村の魅力

栄養教諭 桐生慶子

喬木村の地場産物の種類は豊富です。その一つに小学生が一緒に栽培活動に取り組んでいる小麦があります。昨年度、その小麦を使ったパンを給食で出せないか生産者さんに相談したところ、収穫量が少なく断念。今年目は目処が立ったことから、喬木産の小麦を使ったパンの献立を献立コンクールへ応募することに決め、パン加工業者さんとの打ち合わせ、試作、組み合わせる献立の検討を始めました。信州の伝統野菜に認定されている「志げ子なす」、喬木村のブランド豚「くりん豚」はもちろんのこと、地元を生産者の皆さんが日頃から心を込めて育ててくださる野菜をたくさん使い、喬木村の魅力が感じられる献立となるよう工夫しました。

審査の結果、素晴らしい賞をいただくことができ、大変うれしく光栄に思います。この献立に携わっていただいた多くの皆様のお力添えがあってこそと感謝しています。

今後この受賞を励みに、地場産物を活用した魅力ある給食づくりと食育の推進に取り組みんでいきたいと思っております。



参加者の声

慣れない場所での調理でしたが、設備、器具類など整っていたよかったです。

* 献立コンクールの作品レシピは、「長野県産物を活用した学校給食献立レシピ集」(3月発刊)に掲載します。

審査委員長



中澤 弥子
(長野県立大学健康発達学部食健康学科教授)

副審査委員長



永岡 勝
(長野県教育委員会事務局保健厚生課長)

審査委員

*敬称略、50音順

- 小林 晴江 長野県学校保健会栄養教諭・学校栄養職員部会長
- 田中 武 長野県小学校長会(長野市立榎花小学校長)
- 松澤 雅子 長野県PTA連合会 副会長
- 柳沢 幸子 長野県学校給食会 食育アドバイザー
- 吉澤 小百合 生産者(農村生活マイスター協会 上伊那支部)
- 和田 優子 長野県教育委員会事務局保健厚生課指導主事

を活用した献立コンクール | 審査結果

コンクール」の第2次審査会が行われました。ここ3年間はコロナウイルスを通しての審査会となりました。本年度も応募総数113件という多くのいただきました。コンクールでは、本年度よりお願いをした審査委員長査員の皆様大変熱心に審査をしていただきました。今後も献立コンニューづくりにつなげていっていただければと思います。

自由献立部門

長野県産物を使用し、食育として教材化したもの

秀賞

生坂村学校給食共同調理場



先日、小学校において4年ぶりに「生産者交流会」が行われました。子どもたちは思いを込めたメッセージカードを渡し、「生坂村の食材をいっぱい使ったこの給食が大好きです！」と日頃の感謝の気持ちを伝えました。生産者の皆様に、コンクールの受賞の報告もさせていただくと、大変喜んでくださり、子どもたちと共に、心温まる時間を過ごすことができました。

「子どもたちには、生坂村の安全安心な農産物を食べて元気に育ってほしい。そしていつまでも生坂村を愛していただける人になってほしい」という生産者の願いを大事にし、これからも職員で力を合わせ、子どもたちの心に残る、おいしくて魅力的な給食の提供を行っていきたいと思えます。

今回の献立コンクールには、4月に提供した「地域食材の日・生坂を味わおう！」の献立で参加しました。このような素晴らしい賞をいただくことができたのも、日頃より安全・安心な農産物、加工品を丹精込めて作り、給食を支えてくださる生坂村の生産者の皆様のおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

栄養教諭 小山 美津子

ふるさと生坂村の給食を
いつまでも

優秀賞



長谷学校給食共同調理場

優良賞



茅野市立北部中学校



木島平村学校給食センター



長野県長野ろう学校



上田市長和町中学校組合立
依田窪南部中学校

参加者の声

県内各地の先生方の献立に対する思いや地域食材を知ることができてとても勉強になりました。

参加者の声

〇〇センターのインスタを毎日見て、「おいしそうだなあ」「食べたいなあ」と思い続けていて、本日食えることができて幸せでした。

